

## 大学図書館問題研究会京都支部 第29回京都支部総会のご案内

大図研京都支部会員の皆様へ  
支部総会を下記の要領で開催致します。総会終了後には情報交換会が予定されております。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げております。

記

日時：7月7日（金）午後7時から8時（終了後、会場にて情報交換会があります）

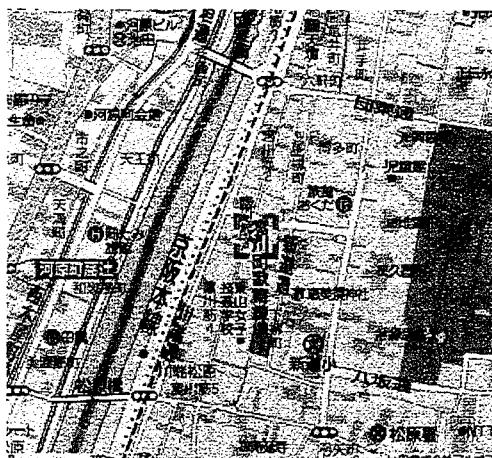
場所：光琳（京都市東山区宮川筋3丁目285） 電話 075-541-8050

## 会場へのアクセス

- ・京都市バス 四条京阪前バス停より 徒歩5分（停車する主な系統：201, 203, 207）
  - ・京阪四条駅より 徒歩5分
  - ・阪急河原町駅より 徒歩8分

## 歩き方

- ・阪急河原町駅下車の場合  
四条通を東へ → 四条大橋を渡る  
(以下は京阪、市バスと同じ)
  - ・京阪四条駅、市バス四条京阪前下車の場合  
四条大橋東側交差点 → 川端通を南へ  
→ 一つ目の信号を通過 (团栗橋東側) し、  
次の角を左折 (東へ) → 一つ目の角を  
右折 (南へ)  
→ すぐ左手 (東側) に光琳



## 〔目 次〕

第29回京都支部総会のご案内 ... 1  
大学図書館問題研究会第29回京都支部総会議案 ... 2

○ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたはUBIへお寄せください。

電子メール : dtkk@rg7.so-net.ne.jp (大学図書館問題研究会京都支部)

URL : <http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm>

## 大学図書館問題研究会第29回京都支部総会議案

### 【第1号議案】

2005年度（2005.7～2006.6）活動総括及び

2006年度（2006.7～2007.6）活動方針

はじめに

文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会が今年の3月23日に「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」を公表しました。大学図書館に関しては、第2章「学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について」において、現状と課題が分析され、今後の対応策として大学図書館の戦略的な位置付けの明確化、電子化への積極的な対応、電子化を踏まえた大学図書館の強化すべき機能、目録所在情報サービスの強化、大学図書館のサービス機能の強化、大学図書館の社会・地域との連携の推進が提示されています。ここに現在の大学図書館をめぐる主要な論点が網羅されています。報告書が最後に述べているように、大学図書館には教育研究支援という従来からの役割に加えて、「学術情報の円滑な流通や社会貢献に資する機関リポジトリによる大学からの情報発信力の強化、情報リテラシー教育などの教育サービス機能の強化」など、新たな役割を推進することが求められています。これを実現させるために「運営体制の強化に努め、多様化する利用者のニーズ等に対応していく必要がある。」と述べています。そのために高度の専門的能力を備えた図書館職員の必要性についても述べられています。

一方では図書館のビジョンや戦略を立てられる基幹業務のみを専任職員が担い、その他の専門的業務も含め実務については外部委託してゆくといったアウトソーシングの流れが私立大学図書館を中心に拡がりつつあります。委託スタッフのモチベーションや能力、サービス水準の高さを報告している事例も散見されますが、経験を積むことで得ることのできるスキルが、委託スタッフのローテーション（入れ替わり）にともない、どのように継承されるのかなど、検討すべき課題が無くなつたわけではありません。いかにモチベーションや能力が高くても、安定した職場環境が保障されなければ、「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」が求める「高度の専門性・国際性を持った大学図書館職員の確保・育成方策」など絵にかいた餅となります。

このような状況下において、現場の図書館員は、予算と人員の抑制という問題をかかえつつ、サービスの多様化、高度化を迫られています。このような時にこそ、図書館員ひとりひとりの専門的力量が問われています。

個々の図書館員の能力のレベルアップをはかるためには、雇用形態を問わず、すべての図書館員が協力し合い、情報の交換や研修の機会が継続的に提供されることが必要です。そのことが結果として利用者へのサービス向上につながることを図書館内外に積極的にアピールしていかなければなりません。また、利用者や書店・出版関係者とも積極的に交流等、幅広い人的ネットワークを育み、良好な協力関係を築いていくことが必要です。

大学図書館問題研究会京都支部では、このような状況を踏まえ、図書館員のより高度な力量形成に向けて活動を展開してきました。

---

 1. 2005 年度活動総括

## (1) 研究交流活動

2005 年 11 月 12 日に京都ワンディセミナー「最新学術情報データベース比較の極意 - Web of Science, SCOPUS, Google Scholar を中心に」を開催しました。講師としてピーター・ヤチヨ (Peter Jacso) 博士 (ハワイ大学 情報・コンピュータ学科 教授) をお呼びしました。参加者数は 39 名でした。

2006 年 5 月 20 日には「大学図書館を使う！：日本と海外」をテーマとした京都ワンディセミナーを開催しました。セミナーでは、「大学図書館をいかに使うか」にスポットを当て、図書館とそのサービスのあり方について、利用者と図書館員の視点、さらに海外と日本の視点から多面的にとらえることを目指しました。参加者数は 32 名でした。

第 1 報告として、李 明剛氏 (オハイオ州立大学東アジア語学文学学科・国際交流基金フェロー) が「大学図書館での体験 - 日中米の比較 - 」を、第 2 報告として富岡達治氏 (京都大学附属図書館)・原竹留美氏 (京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館)・渡邊英理子氏 (京都大学附属図書館) の 3 名が「見える図書館サービス」(オーストラリアの事例紹介) を、第 3 報告として、辰野直子氏 (京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館) が「ヨーロッパの大学図書館 - 情報リテラシー教育を中心として - 」を発表された後、活発な質疑応答がありました。

セミナーの開催回数については、当初の目標を達成できました。また、内容について外部講師による講演会といった性格のものと、会員の実践発表の場といった性格のものをバランスよく実施することができました。

また、広報期間の短いものが一部あったことが反省点として挙げられます。

## (2) 支部報

新しい会員から退職者まで、執筆者の幅を広げることに努めるとともに、支部委員が積極的に執筆することを心がけました。内容も全国大会や支部総会、その他図書館関係集会等の報告・感想記事、会員の近況報告、電子図書館、ILL、大学図書館史などバラエティに富んだものにしました。編集体制の強化をはかり、紙面の充実をはかつてきました。

## (3) ホームページ・メーリングリスト・メールマガジン

支部委員会報告や行事の案内などコンスタントに情報を会員に提供するように努めてきました。速報的なものはメーリングリスト、より詳しくまとめたものはホームページというふうに使い分けることによって効果的な広報を心がけてきました。

ホームページは、リニューアルを行いました。メールマガジンは 3 号から 10 号まで発信しました。前年度からの課題であった定期配信をほぼ実現できました。

## (4) 組織活動

会員数は 81 名 (2005 年 6 月現在) から 74 名 (2006 年 5 月現在) と 7 名減少しました。会員数変動の内訳は入会者 1 名、他支部からの転入者 2 名、退会者 10 名です。

新規会員の獲得については、あらゆる機会をとらえ、積極的に勧誘を努めてきましたが、引き続き、組織的な取り組みが必要です。

## (5) 財政活動

財政活動については、支部委員会として毎月状況を把握するとともに、積極的な会費納入の働きかけを行っているところです。

また、前年度に引き続いて財政・組織を 3 名で担当する体制を維持し、会費納入率の向上に努めています。

## 2. 2006 年度活動方針

## (1) 研究交流活動

会員のニーズに応えた研究活動の充実をはかり、会員の専門的力量形成に役立てるため、セミナーを2回以上開催します。また会員間のコミュニケーションを促進するため支部報の発行、ホームページの充実、メールマガジンの発行など、一層の努力をします。

積極的に会員間の交流の機会をつくることに努めます。

## (2) 支部報

定期発行に努めます。

会員の多様なニーズに応え、各人のスキルアップに貢献できる内容になるよう努力します。

読みやすい紙面づくりを心がけます。

できるだけ多くの人に執筆していただけるよう努力します。

## (3) ホームページ・メーリングリスト・メールマガジン

京都支部の活動に関する情報をわかりやすく提供するために、ホームページの内容を充実します。また、会員の親睦と交流を盛んにするためにホームページに会員のページを設けるとともに、メーリングリストを効果的に活用できるよう支部会員の8割以上にメールアドレスを登録してもらえるように努めます。

また会員に対して、支部の活動状況を迅速にお知らせする媒体として、メールマガジンの内容を充実するように努めます。

## (4) 組織活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。例えば、セミナーなどあらゆる機会をとらえ、入会の勧誘に努めます。

そのために魅力ある企画を立てるように努力します。

## (5) 財政活動

個々の会員への個人別会費納入状況のお知らせや振込用紙の発送を今年度も引き続いだ行い会費納入率の向上に努めます。

財政活動を一層前進させるため、支部委員会において、毎回担当者から報告と提案を受け、全員で取り組みます。

また、個々の会員にあらゆる機会をとらえ積極的・直接的に声をかけ、会費納入を働きかけます。

(以下の議案は当日配布)

【第2号議案】2005年度決算報告活動総括 及び 2006年度予算及び会計監査報告

【第3号議案】2006年度支部役員選挙